



2026年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年6月12日

上場会社名 株式会社バルニバービ 上場取引所 東
 コード番号 3418 URL https://www.balnibarbi.com
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 佐藤 裕久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 宮下 大輔 TEL 06-4390-6544
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年7月期第3四半期の連結業績（2025年8月1日～2026年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年7月期第3四半期	11,085	5.3	279	△35.0	236	△41.5	169	△40.0
2025年7月期第3四半期	10,529	6.5	429	△16.9	403	△22.5	282	△42.5

(注) 包括利益 2026年7月期第3四半期 171百万円 (△39.7%) 2025年7月期第3四半期 285百万円 (△42.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年7月期第3四半期	15.69	—
2025年7月期第3四半期	27.72	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年7月期第3四半期	14,330	6,181	42.2	559.59
2025年7月期	13,536	6,071	43.9	550.56

(参考) 自己資本 2026年7月期第3四半期 6,051百万円 2025年7月期 5,943百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年7月期	—	2.50	—	5.00	7.50
2026年7月期	—	2.50	—		
2026年7月期（予想）				5.00	7.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年7月期の連結業績予想（2025年8月1日～2026年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,095	5.3	740	15.9	683	9.9	443	3.5	41.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は、2025年11月20日の取締役会において、自己株式処分を行うことについて決議いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該自己株式の処分の影響を考慮しております。なお、当該自己株式の処分については、2025年11月20日公表の「譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分に関するお知らせ」及び2025年12月18日公表の「譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分の払込完了及び一部失権に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年7月期3Q	10,962,380株	2025年7月期	10,962,380株
② 期末自己株式数	2026年7月期3Q	149,105株	2025年7月期	167,405株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年7月期3Q	10,803,892株	2025年7月期3Q	10,196,764株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢の改善や実質賃金のプラス圏浮上を背景に、個人消費は緩やかな回復基調が続きました。一方で、エネルギー・原材料価格の高止まり、円安基調の継続に加え、中東情勢をはじめとする世界経済への影響懸念等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。外食業界におきましては、インバウンド需要の継続的な回復に加え、春休みや行楽シーズンに伴う国内移動需要の増加を背景として、都市部及び観光地を中心に外食需要は堅調に推移いたしました。一方で、慢性的な人手不足に加え、人件費、エネルギー価格、主要食材の価格高騰など、業界を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループでは、従来の「レストラン事業」におけるバッドロケーション戦略での出店で培ったノウハウや知見をもとに、食をベースに総合的なエリア開発を行うことで活性化した不動産の流動化により新たな収益を見込む「エステートビルドアップ事業」を2つ目の成長戦略の柱とし、「食から始まる日本創再生」に取り組んでおります。

レストラン事業においては、既存店の再構築による収益最大化を進めるとともに、新規出店を通じた事業成長を加速しております。2026年3月には、東京都港区南青山エリアにおいて、食・音楽・アートを横断したライフスタイル提案型カフェ・オールデイダイニング「L A & L E」を出店し、都市型レストランの新たな価値創出に取り組んでおります。また、神奈川県相模原市においては、143席を有する大型イタリアンレストラン「C A F F E I T A L I A N O L O C A L E」を出店し、地元食材を活用したオールデイダイニングとして、地域に根差したレストランを展開しております。また、デベロッパーからの出店要請は引き続き高いニーズがあり、出店エリアを厳選したうえで新規出店のための体制構築に取り組んでおり、さらには、都心部や季節変動の高いエリアの店舗から期間限定で出向くことのできる新たな働き方のモデルケースとして、冬季期間限定出店も実施しております。このような取り組みにより、柔軟で効率的な事業運営を実現し、社員のライフスタイルにも対応した働き方を支援しております。

エステートビルドアップ事業においては、淡路島北西海岸を舞台に展開する食を通じた地方創再生プロジェクト「F r o g s F A R M A T M O S P H E R E」におきまして、新たな宿泊施設を開業いたしました。サウナ機能を備えたヴィラタイプの宿泊施設であり、淡路島の自然景観を生かした滞在型コンテンツとして、観光需要及び中長期滞在需要の取り込みを図っております。また、淡路島南岸におけるプロジェクトでは、2024年7月に開業したレストランを核に、2025年4月に開業した5棟のコテージホテルは順調に稼働しており、同エリアにおいて新たなホテルの開業に向けた準備を進めております。淡路島に新たな観光客を呼び込む拠点としての役割を果たすと共に、地域全体の魅力を発信し、エリアの活性化に寄与することを目指してまいります。さらに、2023年に開業いたしました島根県出雲市西海岸における地方創再生プロジェクト「W I N D Y F A R M A T M O S P H E R E」では、レストラン、宿泊施設の運営の強化に加え、「出雲・湖陵パーキングエリア」における既存店舗を業態転換し、全長18mのスライダーやジップラインなどを備えた無料パークエリアを新設するとともに、カフェ&ピッツァ「C a f f e & P i z z a L O C A L E」を開業いたしました。地域住民の日常利用に加え、観光客需要にも対応することで、地域交流拠点としての機能強化を図っております。加えて、愛媛県伊予市森・三秋エリアにおいては、瀬戸内海を望む優れた景観を生かし、レストラン、BBQゾーン、グランピング、一棟貸しコテージ、RVパーク等を一体的に整備する滞在型観光拠点の開発準備を進めております。伊予市が誇る農水産物を活用したメニューや加工品の開発にも取り組み、地域資源を生かした食文化発信拠点として中長期的な価値創造を目指してまいります。

当第3四半期連結会計期間における当社及び連結子会社の店舗の増減といたしましては、レストラン事業の不動産デベロッパー戦略において2店舗をオープン、大学・その他戦略において期間限定店舗を1店舗クローズ、エステートビルドアップ事業において店舗の業態統合に伴い1店舗をクローズし、当第3四半期連結会計期間末における当社グループの運営する店舗数は104店舗となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は11,085,988千円（前年同期比5.3%増）、営業利益は279,267千円（前年同期比35.0%減）、経常利益は236,148千円（前年同期比41.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は169,515千円（前年同期比40.0%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりであります。

① レストラン事業

店舗運営に関しましては、店舗運営子会社における各店舗の状況に合わせたきめ細かい店舗運営に取り組み、ビアガーデンやバーベキュー、こたつテラス等季節に応じた店舗運営、営業企画やイベントの立案、安心安全なテラスの活用や、顧客満足度の向上と収益性を安定させる取り組みを実施しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は10,196,339千円（前年同期比6.9%増）となり、セグメント利益は251,406千円（前年同期比27.2%減）となりました。

(a) バッドロケーション

バッドロケーション戦略におきましては、大型・複合型物件の開発を進める一方で行政や大手デベロッパーとの連携により様々なソーシャルプロジェクトなどへ参画を行うことで、食をベースに複合的な店舗開発を推進しております。また、引き続きバッドロケーション戦略の店舗の運営安定化を目的に不動産定期借家契約による退店リスクのある物件につきましては土地、建物、借地権取得など不動産保有を推進し店舗運営の安定化による収益性確保、不動産価値向上による財務体質の改善に努めております。2025年12月には福岡市博多区の「ガープ リーブス」を不動産定期借家契約の期間満了によりクローズしております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末におけるバッドロケーション戦略の店舗数は、関東地区18店舗、関西地区7店舗、その他地域1店舗の計26店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,599,473千円（前年同期比3.4%増）となりました。

(b) 不動産デベロッパー

不動産デベロッパー戦略におきましては、好立地、特別な店舗家賃での誘致や初期投資の軽減など好条件での物件獲得を行うことができ、売上規模、収益性、話題性の高い物件を選定することで当社の個性を活かした店舗開発を推進しております。2026年3月には東京都港区南青山に新たに誕生した「表参道Grid Tower」に「LA & LE」をオープン、神奈川県相模原市の「プラウドタワー相模大野クロス」に「CAFFE ITALIANO LOCALE」をオープンしております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における不動産デベロッパー戦略の店舗数は、関東地区22店舗、関西地区15店舗、その他地域3店舗の計40店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,889,805千円（前年同期比9.2%増）となりました。

(c) 行政・公共機関

行政・公共機関戦略におきましては、新たな地方自治体との取り組みにおいて、その街ならではのオリジナルな業態の開発、地域活性化イベントの開催などを行い、地方創生ネットワークの形成を推進しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における行政・公共機関戦略の店舗数は、関西地区13店舗、その他地域1店舗の計14店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,791,753千円（前年同期比2.0%増）となりました。

(d) 大学・その他

大学・その他戦略におきましては、学生のみならず近隣住民へのターゲット層の拡大及びコストコントロールによる収益性改善を進めております。また、顧客の消費動向の変化により拡大した中食需要の取り込みを目的とした通販サイト「CANDLE TABLE」の展開等、顧客満足度の向上と収益性を安定させる取り組みを行っております。2025年11月には冬季期間限定店舗として北海道富良野市の富良野スキー場に「レストラン ダウンヒル」をオープン、12月には新潟県魚沼郡のかぐらスキー場に「ぶなキッチン」「スープステーション田代」をオープン、長野県北安曇郡のつがいけマウンテンリゾートに「瀬戸内淡路島 中華そばいのうえ」をオープンし2026年3月にクローズしております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における大学・その他戦略の店舗数は、関東地区1店舗、関西地区3店舗、その他地域2店舗の計6店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高366,510千円（前年同期比9.7%増）となりました。

(e) その他の事業

その他の事業は、企業、行政機関などに対して、地域ブランド振興、カフェやレストランの企画・開発等のコンサルティングを行っております。当第3四半期連結累計期間における売上高は269,813千円（前年同期比18.6%増）となりました。

② エステートビルドアップ事業

当社グループでは、食をベースとした地方創再生プロジェクトとして兵庫県淡路島北西海岸「Frogs FARM ATMOSPHERE」を筆頭に、島根県出雲市西海岸「WINDY FARM ATMOSPHERE」及び兵庫県南あわじ市のエリア開発に取り組むことで、地方創再生ネットワークの形成を推進しております。「Frogs FARM ATMOSPHERE」におきましては、2026年4月にサウナ機能を備えたヴィラタイプの宿泊施設「KAMOME SLOW HOTEL POOL HOUSE」をオープンいたしました。また「WINDY FARM ATMOSPHERE」におきましては、「出雲・湖陵パーキングエリア」の既存店舗を業態転換し、パークエリアを併設したカフェ&ピッツァ「C a f f e & P i z z a L O C A L E」をオープンし、地域住民の日常利用に加え、観光客需要にも対応することで、地域交流拠点としての機能強化を図っております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末におけるエステートビルドアップ事業の店舗数は関西地区15店舗、その他地域3店舗の計18店舗となり、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,168,632千円（前年同期比4.1%減）となり、セグメント利益は27,861千円（前年同期比66.8%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

現金及び預金の減少313,283千円、販売用不動産の減少57,158千円、建設仮勘定の増加855,799千円及び建物及び構築物の増加295,057千円等により、総資産は前連結会計年度末に比べ793,913千円増加し14,330,765千円となりました。

(負債)

短期借入金の増加654,256千円及び長期借入金の増加200,847千円等により、負債は前連結会計年度末に比べ683,927千円増加し8,149,304千円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結累計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して109,985千円増加し、6,181,460千円となりました。これは主に利益剰余金の増加88,506千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2025年9月12日の「2025年7月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,394,087	3,080,803
売掛金	806,806	803,851
商品及び製品	210,066	237,255
原材料及び貯蔵品	36,003	39,732
販売用不動産	2,217,170	2,160,012
未収還付法人税等	3,597	7,674
未収消費税等	2,372	6,429
その他	399,671	245,347
貸倒引当金	△4,655	△4,655
流動資産合計	7,065,119	6,576,451
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,651,124	2,946,181
機械装置及び運搬具(純額)	53,714	53,245
工具、器具及び備品(純額)	746,175	808,116
土地	1,164,357	1,187,712
リース資産(純額)	1,201	300
建設仮勘定	255,022	1,110,821
有形固定資産合計	4,871,594	6,106,378
無形固定資産		
のれん	24,765	17,575
借地権	295,288	282,437
その他	20,773	18,849
無形固定資産合計	340,827	318,862
投資その他の資産		
投資有価証券	1,550	1,550
差入保証金	695,287	742,385
繰延税金資産	520,730	511,166
その他	28,268	114,494
貸倒引当金	—	△49,336
投資その他の資産合計	1,245,836	1,320,260
固定資産合計	6,458,258	7,745,500
繰延資産		
株式交付費	13,473	8,813
繰延資産合計	13,473	8,813
資産合計	13,536,851	14,330,765

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	350,870	375,682
短期借入金	537,584	1,191,840
1年内返済予定の長期借入金	1,003,438	908,169
リース債務	1,751	—
未払金	675,610	738,792
未払法人税等	108,482	20,592
未払消費税等	236,685	139,978
契約負債	13,681	19,468
賞与引当金	8,467	32,109
株主優待引当金	45,575	6,882
その他	164,345	163,645
流動負債合計	3,146,493	3,597,161
固定負債		
長期借入金	3,556,058	3,756,906
資産除去債務	690,344	669,899
繰延税金負債	11,703	—
その他	60,776	125,336
固定負債合計	4,318,882	4,552,142
負債合計	7,465,376	8,149,304
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,608,010	1,608,010
資本剰余金	1,956,273	1,956,273
利益剰余金	2,551,623	2,640,130
自己株式	△172,596	△153,381
株主資本合計	5,943,310	6,051,032
非支配株主持分	128,165	130,428
純資産合計	6,071,475	6,181,460
負債純資産合計	13,536,851	14,330,765

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年8月1日 至 2026年4月30日)
売上高	10,529,891	11,085,988
売上原価	2,680,260	2,839,633
売上総利益	7,849,630	8,246,355
販売費及び一般管理費	7,420,265	7,967,088
営業利益	429,365	279,267
営業外収益		
受取利息	1,902	7,103
受取保険金	3,060	6,633
助成金収入	400	—
違約金収入	8,296	10,369
その他	7,402	11,224
営業外収益合計	21,061	35,331
営業外費用		
支払利息	35,866	53,512
シンジケートローン手数料	1,500	1,500
新株発行費	3,615	—
貸倒引当金繰入額	—	13,095
持分法による投資損失	1,210	—
その他	4,237	10,343
営業外費用合計	46,430	78,450
経常利益	403,997	236,148
特別利益		
受取和解金	19,204	—
特別利益合計	19,204	—
特別損失		
固定資産除却損	1,281	608
固定資産売却損	411	2,676
契約解約損	17,200	—
災害による損失	—	4,871
特別損失合計	18,892	8,156
税金等調整前四半期純利益	404,309	227,992
法人税、住民税及び事業税	70,432	58,352
法人税等調整額	48,775	△2,138
法人税等合計	119,208	56,213
四半期純利益	285,100	171,778
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,495	2,263
親会社株主に帰属する四半期純利益	282,605	169,515

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年8月1日 至 2026年4月30日)
四半期純利益	285,100	171,778
四半期包括利益	285,100	171,778
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	282,605	169,515
非支配株主に係る四半期包括利益	2,495	2,263

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	レストラン事業	エステート ビルドアップ 事業	合計		
売上高					
関東	4,275,022	—	4,275,022	—	4,275,022
関西	4,111,841	979,907	5,091,748	—	5,091,748
その他	735,263	234,608	969,872	—	969,872
顧客との契約から生じる収益	9,122,128	1,214,515	10,336,644	—	10,336,644
その他の収益	188,855	4,392	193,247	—	193,247
外部顧客への売上高	9,310,983	1,218,907	10,529,891	—	10,529,891
セグメント間の内部売上高 又は振替高	227,831	—	227,831	△227,831	—
計	9,538,815	1,218,907	10,757,723	△227,831	10,529,891
セグメント利益	345,321	84,043	429,365	—	429,365

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、株式会社エナビードゥーエの株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより「エステートビルドアップ事業」において資産が909百万円増加しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年8月1日 至 2026年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	レストラン事業	エステート ビルドアップ 事業	合計		
売上高					
関東	4,727,665	—	4,727,665	—	4,727,665
関西	4,313,092	909,458	5,222,551	—	5,222,551
その他	814,949	259,174	1,074,123	—	1,074,123
顧客との契約から生じる収益	9,855,707	1,168,632	11,024,340	—	11,024,340
その他の収益	61,648	—	61,648	—	61,648
外部顧客への売上高	9,917,356	1,168,632	11,085,988	—	11,085,988
セグメント間の内部売上高 又は振替高	278,983	—	278,983	△278,983	—
計	10,196,339	1,168,632	11,364,972	△278,983	11,085,988
セグメント利益	251,406	27,861	279,267	—	279,267

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うために取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年4月30日)
当座貸越限度額の総額	1,590,000千円	2,990,000千円
借入実行残高	537,584	1,191,840
差引額	1,052,416	1,798,160

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年8月1日 至 2026年4月30日)
減価償却費	408,001千円	446,406千円
のれんの償却額	1,597	7,190